

中学校第1学年 学級活動指導案

日 時 平成23年10月4日(火) 2校時

指導者 教育センター 所員 森 宜幹

1 題材名 「気持ちを言葉で表そう」～自分にも相手にも気持ちのよい伝え方～ 内容(2)オ 望ましい人間関係の確立

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多く、事前のアンケートでもクラスのよいところとして、みんな明るく、仲がよいという意見が多かった。親しい人間関係の中では自己主張したがるが、人前や公的な場では控えめになる生徒もいる。自分の意見を学級会ノートに記入し、当てられれば発表できるが、自ら挙手して発言することを苦手としている生徒が多い。各教科の授業や学級活動等できちんとした意見発表ができる生徒が増えることが目標である。

本学級では、1学期にアサーティブな自己表現について学習した。アサーティブな自己表現とは、自分の気持ちや考えをきちんと相手に伝え、相手のことも配慮するやり方、自分も相手も大切にしたい表現のことである。お互いが歩み寄って一番よい妥協点を探ることがアサーティブなあり方であると言える。しかし、2学期始めのアンケートでは、言葉遣いが悪いなどの意見があった。そのことから、相手のことを考えて自分の思いを伝えようとする態度はまだ十分とは言えないと思われる。

(2) 題材設定の理由

特別活動における言語活動の充実を図る方策として、話し合い活動の在り方を言語活動の充実という観点から見直すことが指摘されている。本講座授業は学級活動内容(2)における話し合い活動を生かした指導の在り方について提案する。

生徒は、家庭における人間関係、学校における生徒間の多様な人間関係、教師と生徒の人間関係、地域の人間関係など様々な人間関係の中で生きている。小学校時代に比べ、子どもたちを取り巻く人間関係も、学級を中心とした友達という関係に加え、学年の中での人間関係、更には部活動などにおける先輩・後輩という人間関係なども生まれてくる。また、生徒会や地域の集団などの活動を通して、人間関係もより広がりをもってくる。その中であって、一人一人の生徒が学級の中で望ましい人間関係を確立しようとする必要があると考える。学級内の様々な人間関係について振り返らせ、学級の中での行動の仕方や生き方について考え、望ましく円滑な人間関係の確立に資するようにすることが大切である。日常生活の中で生徒が使う言葉は生徒の考えや気持ちを端的に表すものである。望ましく円滑な人間関係を続けていくためには、どんな伝え方をすればよいのかを考えさせ、それを日常生活の中できちんと実践できるようにする必要がある。

本題材では、事前アンケートによる意識調査を行い、自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができているのか実態を調査する。事前活動ではペアトークを通して日常にある課題に気付かせる。話し合い活動では、まず、発表しやすい具体的な学級の実態から意見を発表させた後、自分にも相手にも気持ちのよい伝え方の大切さを考えさせ、気持ちのよい伝え方ができるクラスにするために、どのようなめあてをもって取り組んでいけばよいかを考えさせたい。そして、終わりに、生徒一人一人に具体的なめあてを設定させ、その後の生活の中で、めあての実践に取り組ませる。これから行われる文化発表会などの行事を含め、係活動や当番活動への取り組みの充実にもつなげたい。

「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方」をそれぞれの生徒が続けていくには、個々の生徒が必要なスキルを身に付けるとともに、支持的風土に支えられながら実践を積み重ねることが大切であると考え。一人一人のめあてが達成されているかどうか、実践の振り返りをする中で課題や向上している点に目を向けさせたい。

3 指導のねらい

気持ちのよい伝え方について考え、相手のことを考えて思いを伝え合う学級を目指して、自分は何ができるかを話し合いを通して考えさせる。具体的なめあてをもたせ、実践させることを通して、相手のことを尊重する接し方とその大切さに気付かせる。

4 学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常の生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。

5 指導の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

過程	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
1	・事前アンケートの実施		
2	○事前活動 ・ペアトークで次の4テーマの互いの考えを聞き合う。 ・題材に対する自分の意見を学級会ノートに記入する。	・話し方や聞き方にはくせがあり、聞き合う活動を通して整えることの重要性を説明する。	【関心・意欲・態度】 ・互いに意見を聞き合っている。〔観察、聞いたこと記録用紙〕
	① アンケートの集計結果を見て、どんなことを感じましたか。 ② 「自分やクラスの人」が気持ちのよい伝え方ができていると感じたり、できていないと感じたりするのはどんな時ですか。 ③ 「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができる」ことはどうして大切なのだと思いますか。 ④ 1-1のみんなが「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができる」ようになるためには、どんなことに気を付けるとよいと思いますか。		
3	◇計画委員会 ・ペアトークで出た意見を基に実態を分析し、話し合いの流れを把握する。 ・題材の提案理由を検討するとともに、本時の活動計画を作成する。	・生徒の意見を踏まえ、本時の流れなどを検討し、活動に見直しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・司会団に取り組みうとしたり、協力して活動しようとしたりする。〔観察、話し合いの進め方〕

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動のテーマ 「気持ちを言葉で表そう」～自分にも相手にも気持ちのよい伝え方～

イ 生徒の活動計画 ※学級会ノート

ウ 本時のねらい

- 学級内における「相手への伝え方」の問題を自分の問題として捉え、自分の気持ちをうまく相手に伝えることの大切さを考えさせる。
- 話し合い活動への参加を通して、自分ができていることに気付かせ、自分のめあてへの活動意欲を高めさせる。

エ 教師の指導計画

	活動の内容と生徒の意見 (○)	指導上の留意点と教師の話 (◆)	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 6分	1 はじめの言葉 2 司会団の紹介 3 題材と提案理由、話し合いのめあての確かめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員会での検討の経緯について説明するよう助言する。 ・ 題材の価値や提案理由に関する補足をしながら、学級の連帯感が深まるような話し合いになるよう助言する。 	
活動の展開 30分	4 話し合い (1) 柱1の前の教師の話 柱1 「あなたやクラスみんなは、自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができていると思いますか？」 ○ 悪口を言うのは止めた方がよいと思う。 ○ 給食時間にみんなと楽しく話している。 (2) 柱2の前の教師の話 柱2 「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができるようになることはどうして大切なのだと思いますか。」	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前回の実践や振り返りについてのよさを語り、話し合いに向けての意欲を高める。アンケートの集計結果や事前活動で考察した学級や自分の実態を率直に発言することの大切さを伝える。 ・ 自分やクラスの実態について、事前活動で考えた意見を発表させる。 ・ 意見が出にくいときには、互いに思いを共有して、めあてを立てることの大切さに触れ、発表を促す。 ◆ 柱1で発表された意見を好意的に受け止めたり、聞き返したりしながら振り返ることで、それぞれの価値観を伝えることの大切さを伝える。 ・ 自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができていることの大切さについて、事前活動で考えた意見を発表させる。 	【思考・判断・実践】 ・ 各柱に適した自分の意見を発表している。〔観察・学級会ノート〕

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女の理解が進み、協力できるようになるから。 ○ 団結力のある仲のよいクラスになると思うから。 <p>(3) 柱3の前の教師の話</p> <p>柱3 みんなが「自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができる」ようになるためには、どんなことに気を付けるとよいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 悪い言葉遣いにならないように心掛ける。 ○ 相手の気持ちになって自分の意見を言うことよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が出にくいときには、アンケートにクラスのよさとして出た「明るい、仲がよい、元気」などの言葉を使って考えさせる。 ◆柱1, 2で発表された意見を振り返りながら、一人一人に求められる考え方や行動の仕方について例示し、実践への意欲を高める。 ・事前活動で考えた意見や柱1と柱2の意見を参考にしながら、どんなことに気を付けるとよいか考えさせ、意見を発表させる。 ・自分のめあてだけでなく、他の人がこんなめあてをもったらいという意見も出してみるように促す。 	
活動のまとめ 14分	<p>5 話し合ったことの確認</p> <p>6 話し合いの気づき・自分のめあて</p> <p>7 グッジョブ賞の発表</p> <p>8 教師の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の話し合い活動の振り返りを学級会ノートに記入するよう助言する。 ・話し合い活動において最も意欲的だった生徒を表彰させる。 ・話し合いの雰囲気盛り上げた発言や司会団の活動などを称賛するとともに、実践に向けての意欲を高める。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れを踏まえて自分にも相手にも気持ちのよい伝え方ができるめあてを立てている。〔めあて、学級会ノート〕

(2) 事後の指導と生徒の活動

過程	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動における自分のめあてに基づいて活動する。 ・振り返り活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で、自分のめあてについて確認させ、今日のめあてを実践する場面を想起させる。 ・帰りの会で、振り返りノートにめあての達成度を記入させる。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題や向上した点に気付いている。 <p>〔振り返りノート〕</p>